

2021年度 創立者古屋賞・山梨学院スチューデントズ オブ ザ イヤー賞 受賞者一覧

【創立者古屋賞】

No.	部門	フリガナ 氏 名	学科	学年	所 属	内 容
1	創立者古屋賞	オオツ タクマ 大津 拓馬	ス	4	レスリング部	・2019・2021世界選手権大会 フリースタイル92kg級 日本代表 ・2020アジアレスリング選手権大会 フリースタイル 92kg級 2位 ・2019天皇杯全日本選手権大会フリースタイル 92kg級 優勝 ・2019・2021全日本選抜選手権大会フリースタイル 92kg級 優勝
2	創立者古屋賞	ヤマナ リナ 山名 里奈	ス	4	スケート部	・第43回全日本ショートトラック選手権大会(2021/1月) 500m 6位・1000m 優勝・1500m 優勝・3000m 2位・総合優勝 ・第44回全日本ショートトラック選手権大会(2021/12月) 500m 7位・1000m 優勝・1500m 優勝・3000m 3位・総合優勝 ・修学状況はGPA3.27を修め文武両道を実践した。

【スチューデントズ オブ ザ イヤー賞・大学院】

No.	部門	フリガナ 氏 名	学科	学年	所 属	内 容
1	学術	サカモト ノリヒコ 坂本 憲彦	社	2	太郎良 ゼミナール	本論文「租税法における配偶者の範囲の再検討ー所得税法および相続税法における配偶者の取扱いを中心にー」は、配偶者に対する規定適用について、事実婚や同性婚の配偶者にも適用を認めるべきという提言を行った論文である。現行の所得税法や相続税法における配偶者の範囲は、本税で定義されていないが、通達上で内縁の配偶者は含まないとしている。つまり法律婚で認められた配偶者のみに、配偶者に対する規定が適用となる。 本論文では、各規定の概要及び制度趣旨について述べ、配偶者の範囲について争われた租税判例分析、社会保障法と民法での事実婚の配偶者についての取扱い及び諸外国での事実婚や同性婚への対応方法の検証を行った。 そのうえで、現行法のままでの適用は難しいため、事実婚や同性婚の配偶者を含める旨の条文を新たに立法する必要性を主張した。ただし、事実婚や同性婚は、その関係性を対外的に証明することが困難であり、無条件に認めてしまうと制度の濫用を招く可能性があるため、諸外国を参考に、日本としてのパートナーシップ制度を導入し、このパートナーシップ制度に登録したカップルに対してのみ適用を認めるという提言を行っている。 明確な問題意識から、様々な角度から論証し、パートナーシップ制度の導入を提言している点は評価に値する。本論文は実質的、形式的な基準を備えた優秀な修士論文である。 また坂本氏は、社会人として働きながら熱心に研究活動を行ってきた。この研究に対する姿勢も評価に値する。

【スチューデントズ オブ ザ イヤー賞・大学】

No.	部門	フリガナ 氏 名	学科	学年	所 属	内 容
1	学術	フクシマ ユウコ 福島 優子	政	4	外川 ゼミナール	【卒業論文テーマ】 「人口減少社会を前提とした自治体による持続可能なまちづくりーコンパクトシティ化における自治体による医療・介護・子育ての地域包括支援システムの創出ー」 【推薦理由】 被推薦者執筆の卒業論文は、医療・介護・子育てなどが連携する「地域包括ケアシステム」の構築を中心的視点に据え、コンパクトシティの概念を援用しながら、少子高齢化・人口減少社会において構築可能かつ持続可能であるようにするためには、具体的にどのような政策を実施すれば良いか考察を加えたものである。 本論文の優秀な点は、現代の日本社会にとって喫緊の課題をテーマとしてこれに正面から取り組んだ点、およその総字数が3万3千字という、卒業論文として相当の重量感をもったものである点、課題の指摘にとどまらず、自らの政策提案にも果敢に挑戦している点、その際、複数の他の事例を引用して、自らの政策提案の効果性・有効性を補強している点である。これらの点は、いずれも高く評価することができる。
2	学術	ワタナベ ダイキ 渡辺 大貴	経	4	野村 ゼミナール	卒業論文「コロナ禍におけるプロスポーツの収益確保の方法～代替案とその可能性～」はコロナ禍で無観客試合や数制限により、主な収入源たるチケット収入において打撃を受けたプロスポーツチームがいかにして他の収入源を求めたのか、先進事例を分析し、とった手段の有効性と課題を明らかにしたものである。プロサッカーチームやプロ野球チームが採用したグッズ販売、ギフトイング(ライブ配信者へオンラインで送金する、投げ銭)、クラウドファンディングといった代替手段についての詳細を二年におよぶ丹念な資料収集を元に記述し分析を行った。 その上で、新たな収入源としてスポーツ・ベッティングを取り上げ、その導入までの課題を述べた。百年に一度といわれるパンデミックの時代でかつ、現在の情報技術環境下でのスポーツビジネスの状況を記述した資料としても貴重なものとなるといえる。

3	学術 (自然)	カトウ ユウタ 加藤 雄太	ス	4	苅山 ゼミナール	本学生は自身が取り組んでいるフィールドホッケー競技の競技力向上に資する卒業研究を実施した。卒業論文ではY大学男子ホッケー選手を対象に、フィールドホッケーのパスやシュートにおける代表的なスキルであるプッシュストロークと、長さや質量が異なるバーツイストを実施し、科学的かつ多角的に分析した。その結果、プッシュストロークの球速を高めるための新たな体幹捻転トレーニング法が提示できた。 スポーツ科学部では、本賞の推薦者を選考するため、学部長、副学部長、学年担任からなる選考委員会を立ち上げ、教員から推薦のあった対象者の卒業論文及び卒業論文発表会における発表スキルの評価を行った。その結果、自然科学系分野における研究では、本学生が極めて高い評価を受けた。
4	学術 (人文)	カサガ リュウノスケ 春日 龍之介	ス	4	三井 ゼミナール	本学生は教員を目指している。卒業論文では全国高等学校総合体育大会(バレーボール競技)に出場した男子チームの指導者を対象にバレーボール選手の主体性に関するアンケート調査を実施し、多角的に分析した。その結果、競技力や人間性の向上には選手の主体性が必要不可欠であり、指導者は選手が考えるような声掛け、選手一人ひとりに合わせたアプローチの重要性を示唆するものであり、研究の水準が極めて高い。 スポーツ科学部では、本賞の推薦者を選考するため、学部長、副学部長、学年担任からなる選考委員会を立ち上げ、教員から推薦のあった対象者の卒業論文及び卒業論文発表会における発表スキルの評価を行った。その結果、人文社会科学分野における研究では、本学生が極めて高い評価を受けた。
5	団体活動	タカギ ユウ 高木 裕都	ス	4	学生アスレティック・ トレーナー部	入学当初より学生アスレティック・トレーナーに所属し、特に今年度は男子バレーボール部を中心に「学生アスレティック・トレーナー」として選手のサポートを続けて来ました。練習前のウォームアップ指導、負傷者の対応とアスレックリハビリテーションの立案・指導、テーピング、練習後の選手のケアなど自身の時間を選手のサポートや様々な研修に費やして来たことで、知識や技術だけでなく人としての成長が著しかった1年でした。学生トレーナー部の中でも、後輩への相談を受けたりテーピングの指導をするなど上級生としての自覚も生まれて来ました。昨年12月には男子ホッケー部に対する全日本選手権への帯同がありました。テーピングや宿舎でのボディケアはもちろんのこと、試合会場での状況からチームへのウォームアップを急遽行うことになっても冷静に対応をし、むしろ試合前のチームの雰囲気をもっと佳く導きました。4年間の努力で培った彼の力を存分に発揮出来た瞬間でした。彼のひとりの成長とともにアカデミックとスポーツの現場が融合出来た好例であるといえる。
6	団体活動	タカギ ユウ 西ヶ花 恵	ス	4	学生アスレティック・ トレーナー部	入学当初より学生アスレティック・トレーナーに所属し、3年生の冬頃から女子バレーボール部に対してサポートを始めました。今年度からは普段の練習への参加から選手のケア、アスレックリハビリテーション指導まで対応出来るようになりました。 雰囲気・言動・考え方、これほど人として成長した学生はいません。人の良い一般学生であった彼女が、女子バレーボール部をサポートし始めて驚いたのは「週6日をチームのサポートに費やし続けた」ことです。早朝であろうと夜11頃であろうとチームのサポートを継続し、選手と指導陣の間に入ってチームをまとめる一助をなしても来ました。シーズン最後には試合時にチームの一員としてベンチにも入らせて頂くなど「彼女の努力がチームに認めて貰えたシーズン」でした。誰よりも時間を費やして努力を続けて人として成長した学生のであるといえる。
7	団体活動	ハダ 羽田 みなみ	ス	4	学生アスレティック・ トレーナー部	入学当初より学生アスレティック・トレーナーに所属し、2年生の冬頃から男子サッカー部の選手に対してサポートを始めました。今年度からは普段の練習への参加から選手のケア、試合帯同まで対応出来るようになりました。チームの早朝練習にも参加しながら週末は試合帯同にも対応し、授業の内空き時間に選手のケア・トレーニング指導、さらにはケア方法の研修を継続して少しの空き時間は自身の勉強に費やすなど「全ての時間を学生トレーナーとして費やして」来ました。これほど選手の為に努力した学生は居ないと断言出来ます。男子サッカー部の指導陣からも信頼が厚く、シーズン終盤には試合時にチームジャージを着てベンチへ入るなど「彼女の努力」が認められたと実感する日々です。選手としてではない一般学生が努力を続けて強化育成クラブに認められ、人として大きく成長したことを顧みると、スポーツ科学部を代表して「アカデミックがスポーツをサポート」出来る状況が山梨学院大学にあることを証明した学生であるといえる。
8	社会活動	ナカムラ リョウ 中村 涼(代表) オノ マサトシ 小野 真穂 コダマ ユキヤ 児玉 征哉 オザワ キョウヤ 小澤 恭也	ス	4	いちらカフェ	被推薦者4名は、趣味のカフェめぐりを通して地域住民との交流から社会問題や地域課題に興味・関心を持ち、そこで出会った方々からの支援やゼミ担当教員の助言等を得ながら、社会貢献を主目的とした「いちらカフェ」の運営を自発的に行うに至った。具体的には、2021年4月から10月までの毎週月曜日のカフェの運営を通して、①聴覚障害者からコーヒー豆を仕入れることによる障害者支援、②古民家をカフェとして活用することによる空き家問題の解決やその問題の認知拡大、③紙製ストローや木製食器の活用による環境への配慮、④NPO法人love football Japanの活動(日本の「サッカーをしたくても諦めている子どもたち」)にカフェの売上の一部を寄付する活動)への参画による貧困支援といった社会貢献を果たした。 本活動は多数のメディアに取り上げられ、まさに自主的・自発的な活動を通して、本学の名声を高めたことは明らかである。

9	学術	ムカフ アイ 武川 愛	管	4	吉野 ゼミナール	卒業論文「大学生スポーツ選手の食習慣改善に向けた行動変容ステージと関連要因の検討」は、大学生スポーツ選手の食習慣と行動変容ステージを調査し、行動変容ステージに関連する要因を検討することを目的に行われた研究である。大学生スポーツ選手の食習慣の実態を明らかにするため、先行研究を積極的に調査し質問票を丁寧に作成した。先行研究から下位ステージの選手が多いと予想し、下位ステージの選手の食習慣改善に向けたアプローチが検討できるよう、欠食頻度や食事摂取状況に加え、食事に対する考えや栄養知識テストを調査項目に入れる工夫が見られた。調査結果から対象者の特徴や先行研究と異なる点について考察されており、今後の大学生スポーツ選手の栄養教育につながる内容である。 本論文は、健康栄養学部専任教員による論文審査において、最優秀となった。
10	学術	トウ ジュン キット TO Chun Kit	国	4	Ross Laratta ゼミナール	本論文は、海外でも“Kaizen”として用いられるコンセプト「改善」の有用性を検証した論文である。社会の様々な分野において、作業効率・業務効率を改善させることは大きな課題であるが、このコンセプトの効果的な導入について、国際的比較、及び統計資料と事例研究からの情報をもとに、明確に議論を展開している。その中で、深刻な労働力不足と生産性の低下に直面している日本において、日本政府や各企業が、従業員のニーズを認識し意見を評価しつつ改善を推進するためにどのような方策をとることが可能かについて、オランダやデンマークの政策例と比較しながら論じている。仕事と生活の調和に関する世界基準における日本の位置づけを考えるうえでも、本論文は有効な視点を提供している。多角的な学術分野の視点から問題を捉えていると同時に、更なる研究へと発展する可能性を含む論文として高く評価する。
11	スポーツ	コバヤシ クルミ 小林 久留海	経	4	ホッケー部 女子	第43回女子全日本学生ホッケー選手権大会 3位(優秀選手賞)
12	スポーツ	サカイ レナ 酒井 玲奈	政	4	空手道部	第64回全日本大学空手道選手権大会 女子団体組手 ベスト8
13	スポーツ	オワベ コウセイ 河邊 皓星	ス	4	ホッケー部 男子	第6回 アジアチャンピオンズトロフィー 2021/ダッカ男子日本代表 準優勝 2021年度関東学生ホッケー春季・秋季リーグ 優勝(2季連続20回目) 秋季優秀選手賞
14	スポーツ	タナカ ダイキ 田中 大貴	ス	4	水泳部	第97回日本学生選手権水泳競技大会 100mバタフライ優勝 200mバタフライ準優勝
15	スポーツ	ハンガチ イツキ 橋口 樹	ス	4	バスケット ボール部 女子	2021年関東大学女子バスケットボール1部リーグ戦 得点王 キャプテンとして貢献
16	スポーツ	タバレグ TAVALEA TIMOTE DANE MAIKA	経	4	ラグビー部	2021年度関東大学リーグ戦(2部) 3位に主将として貢献
17	スポーツ	ナガオ コウタロウ 長尾 康太郎	経	4	硬式野球部	2021年度関甲新大学野球春季リーグ戦 最多本塁打打者賞 2021年度関甲新大学野球秋季リーグ戦 ベストナイン最多打点打者賞
18	スポーツ	イワシタ クルミ 岩下 胡桃	経	4	サッカー部 女子	2021年度全日本大学女子サッカー選手権大会 第3位に主将及び主力選手として貢献 関東大学女子サッカーリーグ「Most Contribution Award(出場記録)」受賞
19	スポーツ	サカキ リュウト 榊 流斗	法	3	レスリング部	2021年天皇杯全日本レスリング選手権大会 優勝 2021年文部科学大臣杯全日本学生レスリング選手権大会 優勝
20	スポーツ	ヒラカワ ユウ 平河 悠	法	3	サッカー部 男子	総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント第3位 主力選手として貢献
21	スポーツ	オクハラ レン 奥原 蓮	ス	3	バレーボール部	2021年関東学生バレーボールリーグ戦2部6位にコートキャプテンとして貢献
22	スポーツ	コガ ワカナ 古賀 若菜	ス	2	柔道部 女子	2021世界柔道選手権ブダペスト大会 女子48kg級 2位 2021グランドスラムパリ大会 女子48kg級 優勝 令和3年度 全日本選抜体重別選手権大会 女子48kg級 2位